

かわむらこどもクリニックNEWS

Volume 10 No 02

103号

平成14年 2月 1日

かわむらこどもクリニック 022-271-5255 HOMEPAGE <http://www.kodomo-clinic.or.jp/>

100人の村

院長

今回はインターネットで流れているメールを紹介したいと思います。比較的話題になっているので、みなさんも目にしたことがあるかもしれません。

.....100人の村.....

もし、現在の人類統計をきちんと盛り込んで、全世界を100人の村に縮小するとどうなるでしょう。

その村には...

57人のアジア人、21人のヨーロッパ人、14人の南北アメリカ人、8人のアフリカ人がいます。

52人が女性、48人が男性です。

70人が有色人種で、30人が白人です。

70人がキリスト教以外で、30人がキリスト教です。

89人が異性愛者で、11人が同性愛者です。

6人が全世界の富の59%を所有し、その6人ともがアメリカ国籍です。

80人は標準以下の居住環境に住み、70人は文字が読めません、50人は栄養失調に苦しみ、1人が瀕死の状態にあり、1人は今、生まれようとしています。

1人は(そうたった1人)大学の教育を受け、そしてたった1人だけがコンピューターを所有しています。

もしこのように、縮小された全体図から私達の世界を見るなら、相手があるがままに受け入れること、自分と違う人を理解すること、そして、そういう事実を知るための教育がいかに必要かは火をみるよりあきらかです。

次のような視点からもじっくり考えてみましょう。

もし、あなたが今朝、目が覚めた時、病気でなく健康だなど感じる事ができたなら、あなたは今生き残ることのできないであろう100万人の人たちより恵まれています。

もしあなたが、戦いの危険や投獄される孤独や苦悩、あるいは飢えの悲痛を一度も体験したことがないのなら、あなたは世界の5億人の人たちより恵まれています。

もしあなたがしつこく苦しめられることや逮捕、拷問または死の恐怖を感じることをなしに教会のミサに行くことが

できるなら、世界の30億人のひとたちより恵まれています。

もし冷蔵庫に食料があり、着る服があり、頭の上に屋根があり、寝る場所があるのなら、あなたは世界の75%の人たちより裕福で恵まれています。

もし銀行に預金があり、お財布にお金があり、家のどこかに小銭が入った入れ物があるなら、あなたはこの世界の中でもっとも裕福な上位8%のうちのひとりです。

もしあなたの両親がともに健在で、そして二人がまだ一緒なら、それはとても稀なことです。

もしこのメッセージを読むことができるなら、あなたは瞬間二倍の祝福を受けるでしょう。なぜならあなたの事を思ってこれを伝えている誰かがいて、その上あなたはまったく文字の読めない世界中の20億の人々よりずっと恵まれているからです。

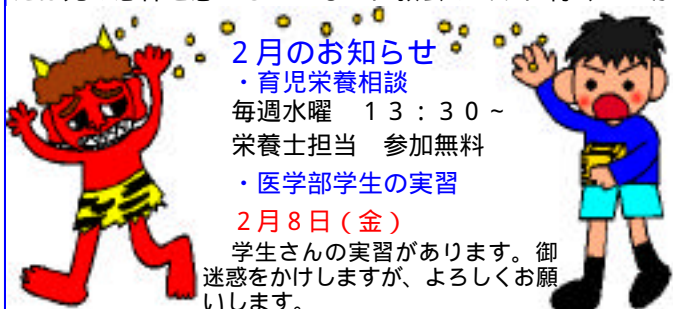
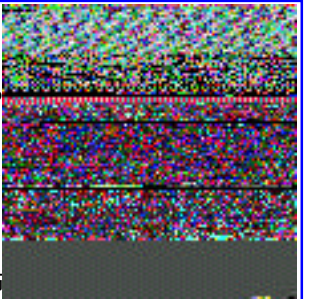
昔の人がこう言いました。わが身から出るものはいずれ我が身に戻り来る、と。

お金に執着することなく、喜んで働きましょう。かつて一度も傷ついたことがないかのごとく、人を愛しましょう。誰もみていないかのごとく自由に踊りましょう。誰も聞いていないかのごとくのびやかに歌いましょう。あたかもここが地上の天国であるかのように生きていきましょう。.....

この文の原作者はダナ・メドウズさんとされています。もとは「1000人の村」で、かなり詳しいものでしたがインターネットで流れているうちに変化し、いつの間にか現在の形になりました。後半の文章は、途中から書き加えられたものと言われています。後半の部分は宗教色が出て、必ずしも賛同できませんが、しかし、自分たちを日本人ではなく、地球人と見るのには、とてもわかりやすい表現だと思います。日本人はわずかに2人です。恵まれていることを知るとともに、世界の实情も理解しやすいと思います。

そして最後に子ども達について。子どもだけの100人の村があったとします、5才まで生きられないのは8人、働かされている子どもは25人もいるのです。幸いなことに、日本では5歳まで生きられない子どもはわずか0.4人です。

このような子どもたちの悲惨な状況を理解するとともに、恵まれた我々に何が出来るかということを考えてみて下さい。お子さんが理解できるようになったら、その時に合わせた「100人の村」を話してあげてください。



2月のお知らせ
・育児栄養相談
毎週水曜 13:30~
栄養士担当 参加無料
・医学部学生の実習
2月8日(金)
学生さんの実習があります。御迷惑をかけますが、よろしく願います。

読者の広場

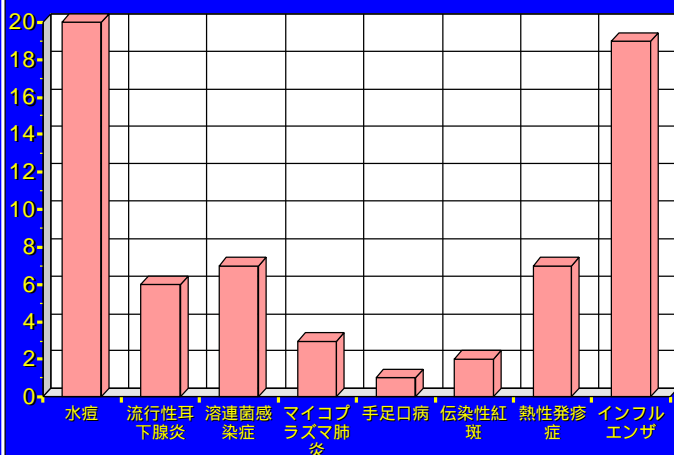
先月もたくさんのメールを戴き。ありがとうございました。まずは里帰り中に受診した札幌の向口さんからです。「1/13,15と帰省中に診察していただいたむかいぐちしゅうとの母です。あの後、なんとか飛行機に飛び乗り搭乗中も袋をもって気持ち悪そうにしていたしゅうとですが家に着いたとたん、元気になり一年ぶりの熱でびっくりしたのかちょっとホームシックも入っていたのかなとおもえるほど元気になりました。咳もだいぶ落ち着いてテオドールを処方していただいていたよかったです。五年前にもお正月に今六才になる弟が川村先生のところで点滴していただいた事があります。札幌に来てもうすぐ四年になりますがいまだに小児科を転々としていていいドクターに巡り合えずかかりつけを作る事が出来ないでいます。また、不安になったら川村先生のホームページを開かせていただくかもしれません。その時は、またよろしく願いいたします。本当にありがとうございました。」。飛行機の時間を気にしながら点滴したのを思い出します。ともかく帰れたこと、途中何もなかったこと何よりでした。いい先生はたくさんいます。探してみてください。



青葉区の今野さんのお父さんからです。「いつも大変お世話になっております。(略)今日妻の実家に行った際に河北新報の小児科医不足の特集記事を見て、いつでも安心して診察をして頂けるかかりつけ医の存在の大きさを痛感いたしました。家に戻ってから河北新報のHPを検索して過去の特集記事を見ると、過疎地、都市部関係なく小児科医の慢性的な不足が深刻化しているとの事で、先生が過去にお話されていた事がそのままののだなと感じました。これについては成り手となる医師が不足しているという事は当然なのでしょうが、その他にも患者側?にも意識の低さ等の問題があるのかなと思いました。これは「母親」よりは「父親」の方なのですが、いつも子供を病院へ連れて行くと感じるのは「子供と母親」しかいない待合室という印象。父親の存在が薄いですね。うまく表現できませんが、今までの日本の家族様式も何らかの影響があるのかなと思いました。どうも日本の親父共は男は外、女は内という感覚がかなり染み付いているのではないかと。子育ては女のする事と決め付けている方々もまだまだ沢山いると思います。そのためこのような問題についても危機感を持っているのは母親だけ(新聞の記事に出てくるのは母親だけですものね)で親父はどうか...(私も人の事を言えるタマではないのですが、ここは敢えて父親は父親で色々を抱えているものもあるのでしょうか、結構根が深いですね。単純に問題視する人間が全体の一部では動くものも動かないのかなと。今のところ日本の政治をやっている方々も殆どが男です。それと日本以外の外国ではこのような問題はないのでしょうか?特集記事ではとりえず東北地方に限定した形となっていますが、いずれそのあたりも記事として掲載してくれると比較ができてより解りやすいかもしれません。子育てと父親の関わりとはどうあるべきかなと時々考えるのですが、これまたかなり難しく頭の悪い私にはまだまだ理解不能です。これはまた別の機会にメールいたします。」。確かに小児の医療には様々な問題があります。CLINIC NEWS「小児科が危ない」(H13.9)も参考に。さて父親の役割についてですが、大事なことはいうまでもありません。奥さんが何か困ったとき相談する相手のトップは御主人なのであります。CLINIC NEWS「お父さんの役割」(H7.7)も参考に、ただ当院の開業理念は「お母さんの不安・心配の解消」ですが?。皆さん(お父さんお母さん)の御意見をお待ちしております。

次は、苦情を紹介します。健診で「心配なことはありませんか」と聞くと、「おむつかぶれ」と答えたので、軟膏を処方しました。翌日御主人から「必要のない軟膏を渡され、お金まで払われた。そうやって金儲けしているのではないか。」と、厳しい口調で電話を頂きました。健診は市の補助で、無料(仙台市の場合は2,4~5,8~9ヶ月)となっています。しかし薬剤を投与する場合は、健康保険を使う必要があります。健康保険では、費用(一部負担金)が生じるのは仕方ないことです。無理矢理出したつもりはないのですが、説明が少し足りなかったかと反省しています。必要のないときは、そう言って下さい。はじめての患者さんだったので、言えなかったのかもしれませんが。当院を良く知っている方々は、「そんなことはない」こと、おわかりだと思います。苦情にも、しっかり応えていきます。御遠慮なく、どうぞ。

1月の感染症の集計



水痘はかなり多く見られています。おたふくも比較的多く、溶連菌感染症、マイコプラズマ肺炎もあります。手足口病は減少しました。月末からインフルエンザが増えてきます。増える傾向があり、検査(10分程度で結果が出ます)で明らかな陽性例や家族例も見られます。これからの流行が予想されているので、高熱などの場合は、早めの受診を。

インフルエンザ注意報発令。

編集後記

投書、その後、電話で「不満であれば、軟膏(使っていても)を持ってれば返金します」と。(内心腹立たしかったのは言うまでもありません)その後あっさり軟膏を返しに来ました。苦情、何だったのでしょうか?。インフルエンザ、大きな流行にはならないようですが、注意して下さい。

